

久保博君

山崎勲君

堀川正幸君 社会奉仕事業ご苦労さまでした。大成功おめでとうございます。

ロータリー財団ボックス：

羽賀一夫君 佐藤会長に支払うゴルフのニギリ分です。私がかわりに入れておきます。

柄沢憲司君 外山さんに協力して

梨木建夫君 外山さんに協力して

今井克義君 外山さんに協力して

米山忠俊君 外山さんに協力して

西村護君 外山さんに協力して

卓 話： 「非行少年は大人社会の歪み」 三条市立第二中学校長 吉川一男様



私は教員生活37年くらいですが、その中で約8年間、3回なんですけど機会がありまして、県の行政のほうに関わって参りました。ここに紹介するのは、新潟学園という所で、ここは非行少年だけの治療施設・更生施設です。そちらで35才の頃2年間、お世話になりました。

その後45才くらいから社会教育関係の施設のほうに3年。

たまたま社会教育関係も青少年担当で、どういうわけか非行少年の施設と社会教育においてもやはり青少年教育と関連性がありまして、私としては非常に素晴らしい体験をさせて頂いたと考えております。

なので今回、私が非行少年と関わって得た体験談を話させて頂こうと思っております。

新潟学園は昔、新潟の街の真ん中にありました。現在は内野の海岸のほうにある施設でございます。そこは文部省管轄ではなく厚生省管轄です。

そこに入っている子供達は小学校一年生から高校3年までなんです。

当時、花積正夫園長さんが「そういう非行生徒が居るにも関わらず、先生が一人もいないのはおかしいのではないか」と県に働き掛けられました。

そうして私が派遣された中学の先生としては第一回目であります。

現在は、私に続いて8人目くらいまでおられます。

新潟学園は本来、児童福祉施設でありまして、ここに働いている人は民生部の職員なんです。簡単に言いますと「白岩の里（コロニー）」で働いている保母さん達が、新潟学園に勤務されているわけです。

私が行ってビックリしたのは、私は学校の先生と言う感覚で行ったんですけど、前もって勤務されている保母さん達は＜障害児＞と言う発想で関わっておられるんです。例えば身体障害児・精神障害などですね。そういう子供達との関わり方ですから、大変生徒と先生との間柄がギクシャクしているものが感じられました。

私が初めて行った所でもありますので『どういうふうに関わっていけば良いのか』と言うマニュアル

ルも全くありません。まさに体当りの職場体験でした。

最初の私はスパルタ教育の先生でした。とにかく悪いものは悪いと。実はかなり体罰も行ってきたわけであります（苦笑）

やはり子供達の悪い面・問題が非常に沢山あるわけですから、悪い奴を捕まえてはブン殴ったり説教したりの繰り返しでした。

その中で小学校5年生の男子で、父親が宮崎の刑務所、母親が古町のホステス街の大ボスなんだろう、そんな環境で育ってきた子供が、私の顔を睨みつけて「先生、殴りたかったらいくらでも殴れ、生まれてきた時から殴られることは慣れてるんだ、」「どうせ殴れば気が済むんだろ、」と言われ、反対に私のほうが気合いを入れられたんでしょうかね、開き直られてその時「待てよ!？」と感じたんです。

何故かと言うと、家庭で地域で悪いことをして、親からも学校からも警察からも見放されて、そうして送られてきたところがここなんですから、いいわけが無いんですね。

当時は35名ほどの非行少年がいたわけですが、とにかく毎日一人ずつブン殴っていてもしょうがないし、なんとかして非行少年の治療ができないものか？非行少年の背景はなんなのだろうか？と、約一年くらい後に感じ始めました。

私どもが預かった子供さんたちには、暴走族から放火・万引き・不純異性交遊・校内暴力・家庭内暴力とありとあらゆる者がおりました。

言い方は悪いですけど、私が非行少年を勉強しようと思えば、これだけの教材があるんだから、じっくりと退治してみようかなと考えまして、私なりに色々な本を読んでみたわけですよ。

入ってくるのは警察・児童相談所・鑑別所・家庭裁判所の書類と振り分けてくるわけですから、その子供たちを理解するためにはその資料が沢山あるわけです。で、その資料を細かく見させて頂いた結果、本当に大人と言うのは身勝手なんだなと感じました。

例えば、先程の小学5年の男の子は、幼い頃、母親のホステス仲間に非常にチャホヤとペットみたいに可愛がられていて、母親も非常にいい気分になっていたんですが、ちょうど小学2、3年の小生意気になってくる頃、それだけでは我慢できなくなって外に飛び出して行くようになったんですね。自分の思うようにならなくなると喧嘩をし、友達のお母さんから小言を言われ、親にも叱られる、そうすると金もないままに外へ飛び出し、腹が減れば万引きをする、と非行の繰り返しになっていくわけなんです。

母親がその子供をキチンと育てていれば、躰が出来てきれば、こういう問題行動に至らなくてもよかったのではないかと思われる節が感じられたんですね。

その子供は校内暴力とか教師暴力とかで送られてきました。

あとは、母親はパーマ屋、父親は大工で再婚された家庭の話ですが、母親には（1才前の）乳児の連れ子が一人いました。母親が仕事で忙しくなると、父親に子守りを頼むわけなんです、父親は赤ん坊が泣いても一切構わない。おしめもミルクも。

で、その書類の経歴を見ると、父親は子供が泣くと押入れの中に入れたり、布団をかぶせたりと子供が泣かないように押え付けてしまうと。到底そういう育て方でしたから父親とのコミュニケーションがうまく出来なくて家出の連続。しかも大人不信にかかってしまっていましたので、大人に